

特定非営利活動法人 日本免疫学会  
 平成 29 年度 後期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award  
 研究発表報告書

申請者氏名	嘉島 相輝	会員番号	0034751	
申請者の所属・職名	京都大学ウイルス・再生医科学研究所 再生免疫学分野			
出席会議名	Keystone symposia Lymphocytes and their Roles in Cancer (R1) joint with the meeting on Emerging Cellular Therapies: T Cells and Beyond (B6)			
発表論文タイトル	WT1-specific cytotoxic T lymphocytes regenerated from T cell-derived iPS cells exert therapeutic effect in xenograft model of renal cell carcinoma			

実施結果:

この度は平成 29 年度後期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award に採択して下さり、誠にありがとうございます。私は、アメリカ合衆国コロラド州キーストンにて開催された **Keystone Symposia (2018 年 2 月 12 日～2 月 15 日)** に参加させていただきました。世界中からがん免疫の一流研究者が集まる本学会では、非常に興味深い研究発表が多いことはもちろんのこと、各国の研究者たちの熱気と情熱を感じることが出来ました。

我々の研究室では、「iPS 細胞技術を用いたがん抗原特異的 T 細胞の再生」について研究を行っております。国内でこの分野の研究を行っている研究室は限られているため、国内学会に参加しても踏み込んだ議論が出来ないこともしばしばありますが、本学会では**"Beyond T Cells: HSC, T Progenitor and iPSCs"**というセッションが設けられており、この「iPS 細胞由来の免疫細胞療法」というマニアックな分野について研究している多くの海外研究者の発表を聴くことが出来ました。会期中、iPS 細胞関連の発表をしている研究者には積極的に質問しに行き、普段なかなかできないようなディープな議論を行いました。また、私自身も学会初日に、**"WT1-specific cytotoxic T lymphocytes regenerated from T cell-derived iPS cells exert therapeutic effect in xenograft model of renal cell carcinoma"** のタイトルで口演及びポスター発表を行い、初めて国際学会で発表するとともに、質問者と議論を交わすなど有意義な経験が出来ました。

現在、がんの臨床現場では免疫チェックポイント阻害薬が非常に注目されておりますが、がん免疫研究においては、チェックポイント阻害薬から **CAR-T 療法**などの遺伝子改変 T 細胞を用いた免疫細胞療法の研究にシフトして行っている印象を受けます。しかし、レギュレーションの問題などもあり、国内では遺伝子編集免疫細胞療法の研究が中々進んでいないのが現状です。本学会では、日本のレギュレーションでは考えられないような発想で、様々な遺伝子編集免疫細胞療法が報告されており、海外の研究スピードに改めて感銘を受けるとともに、国内外のがん免疫研究がどれほど違うかを見せつけられました。我々も海外に後れを取らないよう、まずは自分たちの強みを生かして現在の研究を進め、日本が海外と比べて進んでいる分野での **superiority** を保つよう努力しなければいけないと強く感じました。

この度は私をこのような栄誉ある賞に選んでいただき、**Keystone symposia** への参加といった貴重な経験をさせていただいたことに重ねて御礼申し上げます。今回の経験を糧にし、今後も研究に取り組んで参ります。末筆ながら、岸本先生、選考委員の先生方、そして推薦していただいた河本宏先生にこの場を借りお礼を申し上げます。